

学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成29年度

県立学校評価委員会

学校名	埼玉県立和光高等学校		Cグループ
項目	調査の観点	取組状況に関する所見	
目指す学校像	目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。	学校として目指す方向が簡潔かつ的確に示されている学校像である。生徒の実態や学校の現状に応じた適切なものであり、生徒・保護者・地域などの期待に応えるものとなっている。	
重点目標	学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。	学校の取り組むべき方向が四つの柱として設定されている。目指す学校像を踏まえ、学校の取り組むべき課題が明確かつ具体的に示されており、日々の教育活動の指針となっているが、開かれた学校づくりの視点を生かしていただきたい。	
重点目標達成への取組	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。	評価運営委員会が中心となって、学校自己評価システムが運営されている。評価項目や方策の策定に当たり、教職員の更なる参画を促し意見を生かして、一歩進めた具体的なものとなるようにしていただきたい。	
	方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。	重点目標達成のため、分掌・学年等のシートが作成され、取組が行われている。方策の一部にやや抽象的なものもあるので、当該年度に重点的に実施する具体的なものにするるとともに、評価指標を方策の達成イメージが共有できるような分かりやすいものにすることが望まれる。	
	校長的的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。	校長が学校の課題を踏まえた学校経営の方針を持ち、取り組んでいる。校長的的確なリーダーシップの下、生徒指導や国際交流などの取組が行われており、教職員が共通理解を持って組織的・計画的に教育活動を進めている。	
	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。	アンケートなどを実施し、学校自己評価のための情報が収集されている。学校自己評価システムを有効に活用し、前年度の課題を次年度の目標・方策に具体的に生かして、取組の改善や向上を進めていただきたい。	
特記事項			